

# 第1回 県立高等学校改革懇談会 『須賀川・長沼』

日時：令和元年 7月 8日（月） 14：30～16：00

場所：福島県立須賀川高等学校 旭陵会館

## 福島県教育委員会

# 本日の要点

1

県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯

2

須賀川市と岩瀬郡の中学校卒業見込者数の推移と須賀川高校・長沼高校の現状

3

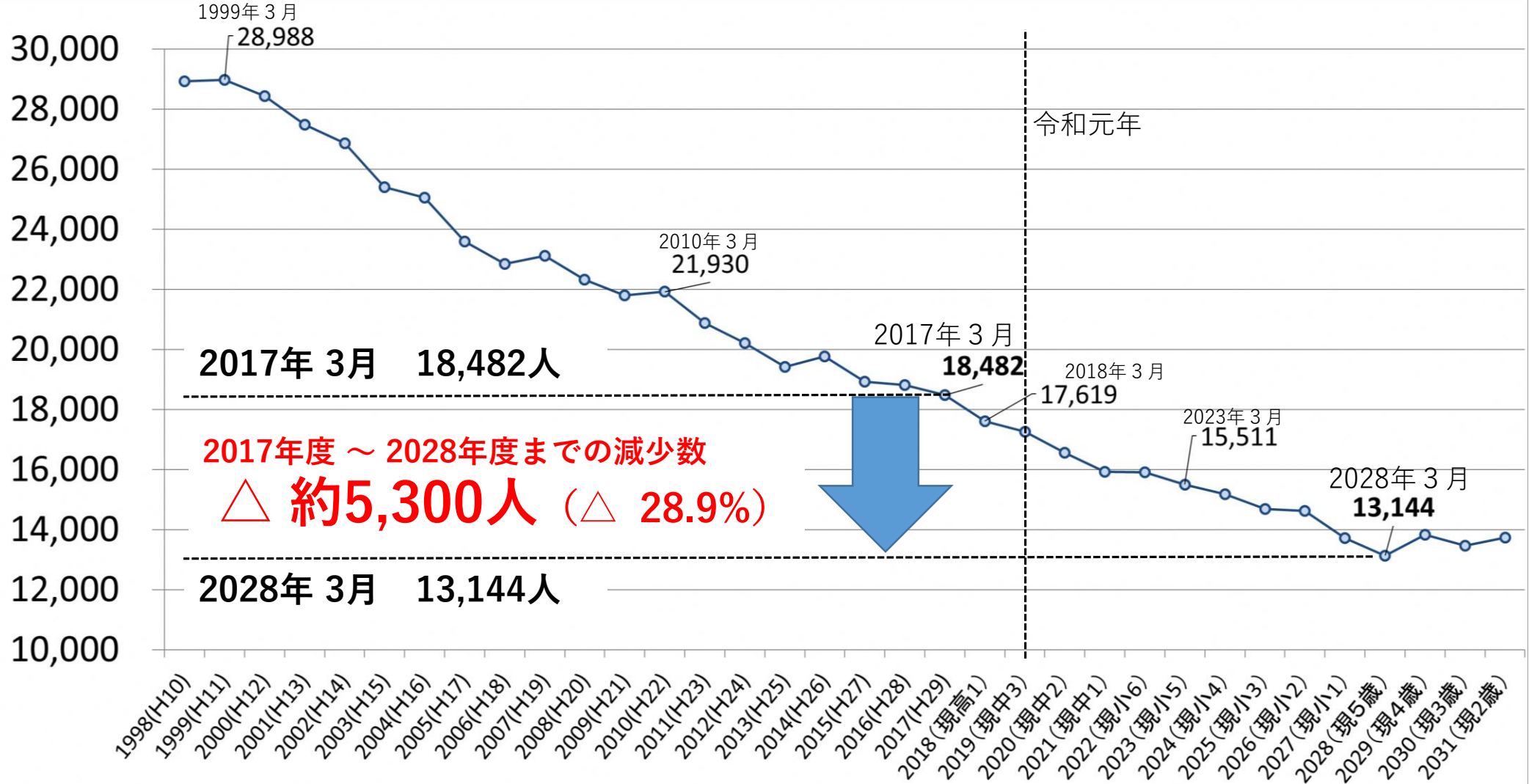
今後の進め方について

1

# 県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯

# 少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

中学校卒業（見込）者数の推移（人）

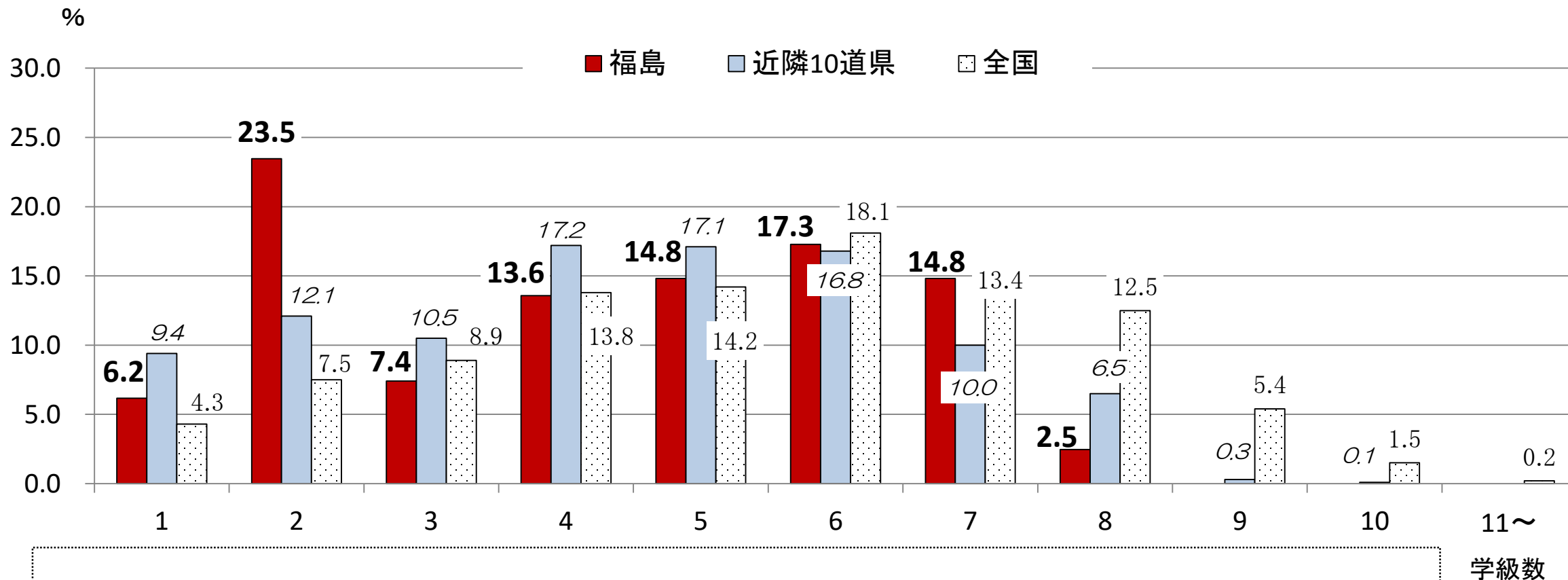


出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。  
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。  
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

（年3月卒業）

# 県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。  
分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

# 本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

## 本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行** (中学校卒業予定者が10年間で約5,300名減少)
- 過疎化・高齡化 (地域コミュニティの維持が課題)
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化 (主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入)
- **高等学校の小規模化** (3学級規模以下の高校の増加)
- 生徒の学習ニーズの多様化 (学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化)
- 東日本大震災と原子力災害からの復興・再生  
(本県の復興に携わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進)



高等学校改革の必要性

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度) 答申  
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年 5月  
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (2019年度～2023年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (2024年度～2028年度) 5年間

# 県立高等学校改革の基本方針

## 基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

## 【4つの基本方針】

**基本方針 1** 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む  
高等学校教育の推進

**基本方針 2** 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

**基本方針 3** 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

**基本方針 4** 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の  
向上



## 再編整備・魅力化の基本的な考え方①

### ○ 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年4～6学級）

1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進

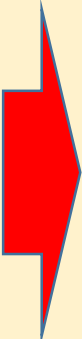
### ○ 望ましい学校規模への再編整備の推進

同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進  
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

## 再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

### 6つの学校群



進学指導拠点校  
進学指導重点校  
キャリア指導推進校  
職業教育推進校  
地域協働推進校  
定時制・通信制高校

# 小規模校のメリット・デメリット

## 【メリット】

- 学校がある地域の生徒が、少ない負担で通学できる。
- 多様化する中で、少人数を希望する生徒のニーズに合っている。

## 【デメリット】

- 一定の集団規模の中で、生徒どうしが切磋琢磨しながら社会性や向上心を育むことが難しい。
- 学級数減に伴う教職員数の減少により、多様な科目選択や部活動など学校の教育活動が制限される。

## 再編整備（統合）による効果

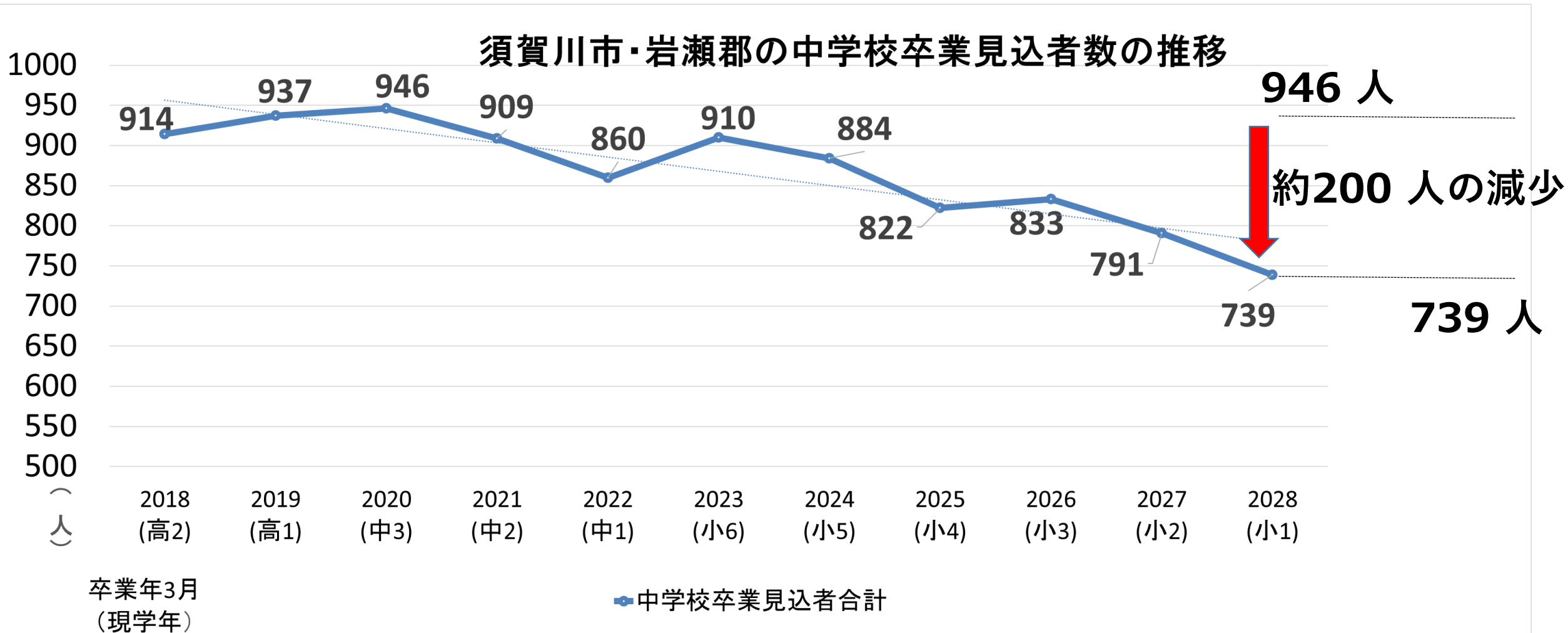
- 一定の集団規模を確保した望ましい学校規模の中で、生徒どうしが切磋琢磨しながら向上心を高め、人間性を育むとともに、探究的な学びや他学科との連携など、新たな取組みをとおしてより深い学びが実践できる。
- 望ましい学校規模とすることによって、教員数が確保され多様な選択科目や部活動からの選択が可能となる。

多様な選択肢を備えた教育内容  
多くの仲間や先生との出会い

2

須賀川市と岩瀬郡の中学校卒業見込者数の推移と須賀川高校、長沼高校の現在の状況

# 少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）



# 学校の沿革概要等

## 須賀川高校

### ○ 沿革 (創立 112 周年)

- 明治40年 須賀川町立商業補修学校を設立
- 昭和21年 福島県立須賀川商工学校となる
- 昭和23年 新学制により福島県立須賀川高等学校と改称
- 昭和62年 創立80周年記念、円谷幸吉像、校歌碑建立
- 平成 7年 商業科をオフィス情報科(2学級)ビジネス会計(1学級)に学科改編
- 平成29年 創立110周年記念式典挙行

### ○ 設置学科 (令和元年度現在)

- 全日制 1 学年 5 学級 (3年: 6 学級) 計 16 学級
- ・ 普通科 4 学級 (3年: 5 学級)
  - ・ オフィス情報科 1 学級

### ○ 面積 敷地総面積 34,628㎡

運動場 17,741㎡ 校舎敷地 16,887㎡

## 長沼高校

### ○ 沿革 (創立 71 周年)

- 昭和23年 福島県立岩瀬農業高等学校長沼分校として  
定時制課程、農業科、家庭科を設置
- 昭和47年 福島県立須賀川高等学校長沼分校として移管
- 昭和53年 福島県立長沼高等学校として独立
- 平成10年 創立50周年・独立20周年記念式典挙行
- 平成30年 創立70周年・独立40周年記念式典挙行

### ○ 設置学科 (令和元年度現在)

- 全日制 1 学年 2 学級 計 6 学級
- ・ 普通科 2 学級

### ○ 面積 敷地総面積 35,614㎡

校舎面積 856.36㎡

# 進路状況（過去3年間）

学校要覧より

## 【須賀川高校】

進路先	大学	短大	専門学校	就職	その他 (未定)	合計
卒業年度						
28	46	17	78	88	4	233
29	34	26	81	77	6	224
30	52	25	88	67	1	233

## 【長沼高校】

進路先	大学・短大	専門学校	就職	その他	合計
卒業年度					
28	4	15	31	3	53
29	2	10	31	3	46
30	4	16	33	3	56



# 部活動

## 【須賀川高校】

- 運動部

バドミントン テニス サッカー  
野球 陸上競技 柔道 弓道  
ソフトボール ソフトテニス  
バスケットボール バレーボール  
ハンドボール 体操 卓球

- 文化部

美術 合唱 茶道 商業 理科  
文学 新聞 吹奏楽 JRC

## 【長沼高校】

- 運動部

野球 ハンドボール テニス  
卓球 バレーボール

- 文化部

家庭 文芸 美術 茶道

# 須賀川高校

## 入学状況（過去10年間）

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
募集定員 上：普通 下：オフィス 情報科	240 40			200 40					160 40			
入学者数 上：普通 下：オフィス 情報科	240 40	240 40	241 40	239 40	200 40	200 40	197 40	200 40	199 40	160 40	155 35	
充足率(%) 上：普通 下：オフィス 情報科	100.0 100.0	100.0 100.0	100.4 100.0	99.6 100.0	100.0 100.0	100.0 100.0	98.5 100.0	100.0 100.0	99.5 100.0	100.0 100.0	96.9 87.5	

長沼高校

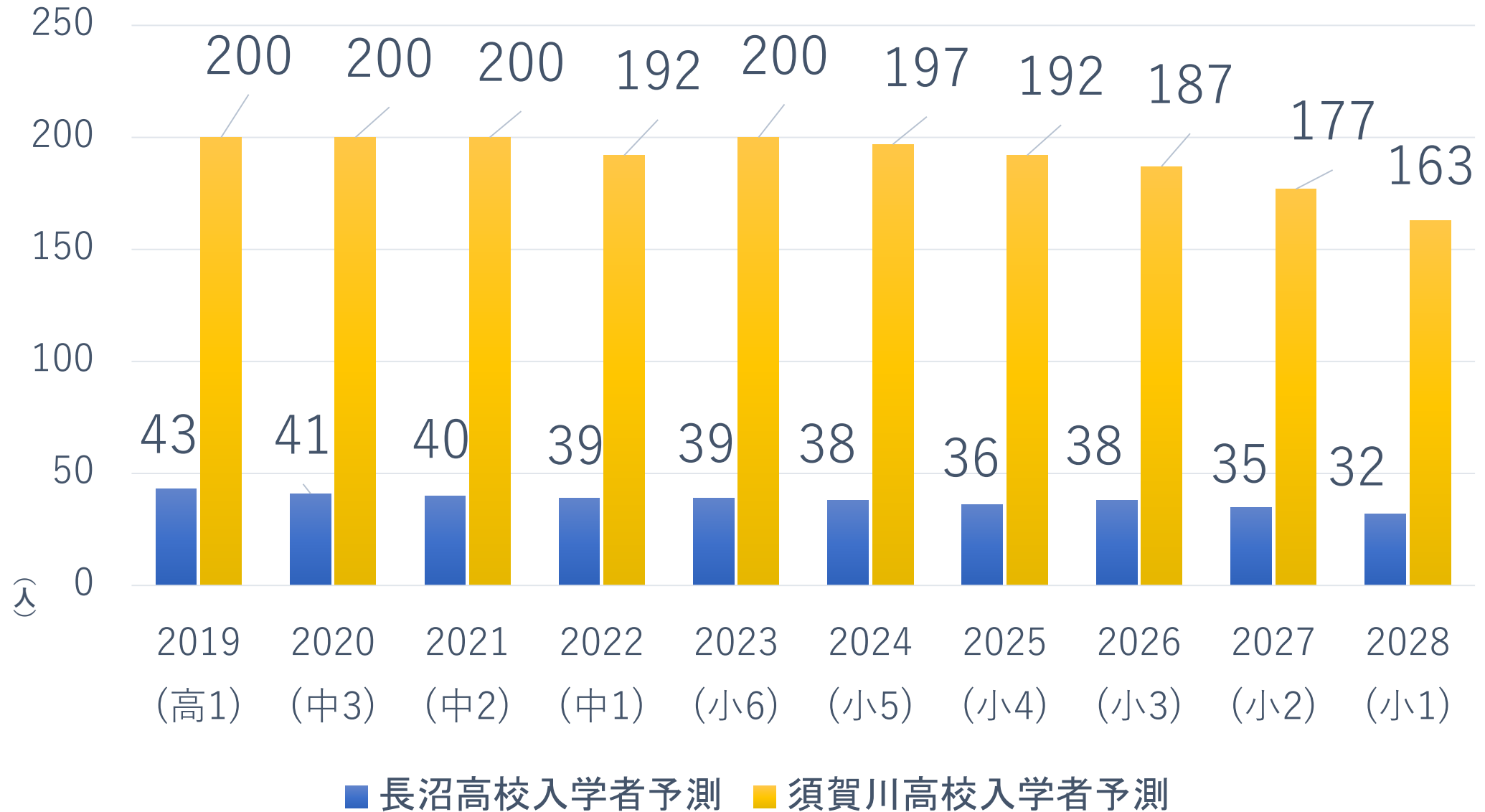
# 入学状況（過去10年間）

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
募集定員	120			80							
入学者数	112	112	84	70	54	60	51	57	46	23	38
充足率 (%)	93.3	93.3	70.0	87.5	67.5	75.0	63.8	71.3	57.5	28.8	47.5

# 平成30年度 須賀川市及び岩瀬郡の中学校別高校進学者数

	卒業 者数	進学 者数	須賀 川	長 沼	須賀 川桐 陽	清 陵情 報	岩 瀬農 業	安 積	安 積黎 明	郡 山	郡 山東	あ さか 開成	郡 山北 工	郡 山商 業	定通 含む その他 県中公 立	(郡 山市) 私立	県 外
須賀川一	90	89	18	2	18	10	10	6	5	1	3				6	7	2
須賀川二	219	218	28	0	42	31	26	5	5	3	12	1	2	1	11	42	6
須賀川三	113	109	21	2	12	8	27	2	4	2	1	2	2		5	18	
西 袋	88	85	9	0	20	13	9	5	4	2	2		1	1	4	6	3
小塩江	6	6	2	0	1		1							1			1
稲 田	28	28	5	0	4	1	12			1				1		2	1
仁井田	62	62	5	3	12	12	2	1	3	3	2	3	1	1	1	11	
大 東	48	47	8	0	7	9	11	1	2						4	3	
長 沼	53	53	10	8	8	5		2	4	2	2		1	1		7	
岩 瀬	44	44	11	1	1	4	9	2	3	2	1	1				8	
鏡 石	118	114	15	0	16	14	22	4	5		1	1		1		21	1
天 栄	42	40	4	1	3	2	5	2		1	2			1		6	
湯 本	3	3	1	0						1							
計	914	898	137	17	144	109	134	30	35	18	26	8	7	8	31	131	14
進学者に対する 割合(%)			15.3	1.9	16.0	12.1	14.9	3.3	3.9	2.0	2.9	0.9	0.8	0.9	3.5	14.6	1.6

# 須賀川高校・長沼高校の入学者数予測



# 統合校の方向性

**須賀川高校**

定員200名

- 普通科(4学級)
- オフィス情報科 (1学級)

**長沼高校**

定員80名

- 普通科(2学級)

2022年4月開校予定

**須賀川・長沼統合校 (仮称)**

**定員：240名 普通科6学級**

**場所：須賀川高校校舎**

# 統合校のイメージ

## キャリア指導推進校

地域を支える核  
となる人材の育成

生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育活動の充実により、  
**大学進学から就職**までの多様な進路希望を実現するための学校

### ● 個に応じた丁寧な学習指導とキャリア教育

須賀川高校と長沼高校の取り組みを継承した丁寧な学習指導とキャリア教育による、生徒の多様な進路希望の実現

### ● ICT機器の活用とアクティブ・ラーニング

ICT機器を活用したアクティブ・ラーニング型など、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、課題解決に取り組む人材の育成

### ● 地域との関わりの中で自己を見つめる教育

地域医療や福祉、地元企業など、様々な分野と連携することで、地域を知り、郷土愛の醸成を図り、自己の将来の在り方を探究

# 検討する統合校の特色化

個に応じた  
丁寧な学習指導

大学進学から就職まで  
多様な進路希望に対応できる  
コース制の導入

主体的・対話的で  
深い学びの実現

地域をフィールドとした  
探究的な学びの導入

I C T 機器利用の  
環境整備

商業科の学び  
の継承



3

## 今後の進め方について

## 今後の予定

### 会議等のスケジュール

第2回改革懇談会（年度内）

第3回以降の改革懇談会（以降必要に応じて開催）

### 今後必要となる組織

改革懇談会でいただいた御意見を具現化するための組織

- 教育内容検討委員会（両校の教職員で構成される検討委員会）
- ワーキンググループ（各校の校内検討委員会）